

入場・視聴
無料

第9回

工大
サミット

開催日時

2026.

11.28 土 13:00~

【 受付時間 | 12:00~ 】

知の総和時代の工業大学 —人口減少期における垣根を超えたエンジニア育成—

人口減少が進む中、エンジニアの育成・確保は社会全体の課題となっています。
本サミットでは、「高大連携」「女性エンジニア」「産学官連携」といったテーマについて、
全国9つの工業大学がこれからのエンジニア育成と工業大学の役割を考えます。

参加大学（五十音順）

AIT 愛知工業大学

大阪工業大学
OSAKA INSTITUTE OF TECHNOLOGY神奈川工科大学
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY芝浦工業大学
SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY東北工業大学
TOHOKU INSTITUTE OF TECHNOLOGY広島工業大学
HIROSHIMA INSTITUTE OF TECHNOLOGY福井工業大学
FUKUI UNIVERSITY OF TECHNOLOGYFUT 福岡工業大学
FUKUOKA INSTITUTE OF TECHNOLOGY北海道科学大学
+Professional

対象

- ▶ 大学教職員（理工系人材育成に関する大学の取組を知りたい方）
- ▶ 高校教員（高大連携や理工系分野への進学指導についてヒントを得たい方）
- ▶ 企業・自治体関係者（産学官連携によるエンジニア育成に関心がある方）

会場

北海道科学大学 A棟

〒006-8585 札幌市手稲区前田7条15丁目4番1号

オンライン同時配信

後援

文部科学省

協賛

芝浦工業大学教育イノベーション推進センター
理工学教育共同利用拠点

特別協力

文具女子博実行委員会

会場参加・

LIVE 配信視聴の

お申し込みは

こちらから



プログラム紹介

13:00 - [開会式・基調講演] 場所 A106 受付 12:00 - (A棟1階)

基調講演

各分野の専門的な知見を持つ方々に、今後の理工系人材の育成をめぐる展望について、ご講演いただきます。

- ▶ 中村 侑紀 様 (文部科学省 高等教育局専門教育課 課長補佐)
- ▶ 幸寺 玲奈 様 (経済産業省 経済産業政策局産業人材課 未来人材戦略室 課長補佐)
- ▶ 西村 紗智 様 (リクルート進学総研 研究員)

14:00 - 15:00 [分科会]

分科会 A

高大連携

高大連携の現在地から考える、 理工系人材育成のこれから

事例紹介・パネルディスカッション

特色ある高大連携の取組紹介と、高校教員を交えた意見交換を通じてこれからの理工系人材育成について考えます。高校・大学それぞれの視点から現状課題や可能性を探ること、理工系進学者を増やすための創意工夫と、これからの高大連携の実践につながるヒントを共有します。

分科会 B

女性エンジニア

未来の女性エンジニア 育成に向けて

—理工系女子学生のロールモデルから考える—

学生によるプレゼンテーション

理工系女子人材の育成が重要課題となる中、学生による発表や高校生との意見交換を通して、理工系分野の魅力や将来のキャリアを伝えます。女子学生を身近なロールモデルとして示し、理工系への進路選択を後押しするとともに、多様な人材が活躍するための人材育成について知見を深めます。

分科会 C

産学官連携

人が減るなら、力を増やす。

—産学官で考える、これからのエンジニア育成—

パネルディスカッション

理工系人材不足への対応には、担い手を増やすだけでなく、一人ひとりの専門性や実践力を高めることも重要です。企業・自治体と連携し、社会課題を題材とした学びや、大学教育と就職活動のよりよい接続を通じて、これからのエンジニア育成を考えます。

15:30 - [プレジデント
ディスカッション] 場所 A106

全国9つの工業大学の学長によるパネルディスカッションです。これからのエンジニア育成と工業大学の役割について分科会の内容を織り交ぜながら意見交換を行います。

13:00

17:00

同時開催

9大学対抗学生交流戦 [ROBO-ONE / eスポーツ]

体育館

E棟1階

大学対抗で優勝を争う学生交流イベントです。二足歩行ロボットの格闘競技「ROBO-ONE」とeスポーツ「大乱闘スマッシュブラザーズ」※を通じて、技術・戦略・チームワークを競い合います。

※この大会は、任天堂の協賛・提携を受けたものではありません。
許諾番号：NJ26-AAABA-F04482

17:00 - [閉会式] 場所 A106

“工大サミット”とは？

工大サミットは、「国際社会で活躍できる理工系イノベーション人材の育成」を共通課題とし、その課題に対応するため、各大学の人的・物的資源の情報を共有し、相互に連携・協力することによる理工系高等教育の更なる活性化を目的としています。